



長野県民生児童委員だより

Vol.152

2023
Autumn

令和5年10月1日

発行人 長野県民生委員児童委員
協議会連合会
会長 伊藤 篤志

編集人 広報委員会
委員長 荒深 たつ子

〒380-0936
長野市大字中御所字岡田98番地1
(長野県社会福祉協議会内)



特集取材

こどもの居場所って?

「子どもの居場所 おいでなん処」(佐久市岩村田)

Contents

- ◆ 特集取材：子どもの居場所って？
子どもの居場所 おいでなん処 2~5
- ◆ 民児協訪問 6~7
大田市美麻地区民生児童委員協議会
東御市北御牧地区民生児童委員協議会
- ◆ NEW! 「民児協だより」が動画になりました! 7
- ◆ 民生委員・児童委員の広報活動のご案内 8
- ◆ 県民児連から助成金のご案内 8

こどもの居場所って？

子どもの居場所 おいでなん処

2021年10月に佐久市岩村田商店街の一角にオープンした「子どもの居場所 おいでなん処」を訪ねました。商店街が主体となり全国に先駆けて「子ども第三の居場所※」事業として、行政の各機関、商店や事業者、教育関係者、福祉関係者、ボランティアなどが協力。子どもを中心にといった運営をしています。担当理事の細川保英さんと、スタッフリーダー山崎敬子さんにお話を聞きました。



▲おいでなん処の皆さん



▲おいでなん処外観

——「おいでなん処」の機能を教えてください。

細川 週3日、火・水・金、午後3時から7時までオープンしています。小学生が学校の帰りにここに来て宿題をやったり、遊んだりして過ごし、5時から6時に食事を提供しみんなで食卓を囲みます。利用は予約制です。

——スタッフはどうしていますか。

細川 教員経験のある山崎敬子さんをリーダーに、子ども支援を経

「おいでなん処」って
どんなところ？



◆細川保英さん
岩村田本町商店街振興組合・岩村田連合商店会理事、寺子屋グループ・株式会社エイチツー軽井沢代表取締役

験するスタッフと、高校生ボランティアが、常時各3人から5人ほど交代で子どもたちと関わっています。高校は岩村田・佐久平総合技術・野沢北・佐久長聖とさまざまです。

——利用者はどれくらいですか。

細川 2022年の利用者は延べ992人。高校生のボランティアが340人で小学生が62人でした。今年度は増えている常時15名程度、週50人、月にして200人、年間で1,500人から2,000人の延べ利用者数が予想されます。

——当初からそんなに集まったのですか。

細川 2021年10月のオープン当初はあまり集まりませんでした。コロナ禍の影響もあり、最初は1回2、3人のこともありましたが、地域で認知してもらったため、民生児童委員の定例会に行つて説明するなど広報しました。翌年の4月からはインスタグラムやラインを活用することで、周知ができてきました。

——どんなお子さんが対象ですか。

細川 小学生なら誰でも利用できます。近頃は、一人親のご家庭など、支援が必要な家庭に届き始め、手応えを感じてきています。

——通ってくるお子さんを取り巻く環境や課題は？

細川 かなり深刻な課題を持つ家庭の子もいます。必要に応じて、

学校や福祉課とも相談しながら対応します。児童館がいつぱいだったり、ひとり親家庭など子どもと向き合う時間が取りづらかったり理由はさまざま。課題を抱える子どもたちが、安心して来られる場所を目指しています。

子どもの居場所 おいでなん処

〒385-0022 長野県佐久市岩村田765
TEL : 0267-78-3726
利用時間 / 火・水・金 15:00 ~ 19:00
利用料 2023年度は無料
定員 15人

利用方法
WEBからお申込み
<https://saku-ibasho.jp/>



※「子ども第三の居場所」とは「課題を抱えた児童を含む小中高校生や、未就学児の親子などが参加できる居場所。地域に住む高齢者や社会人も活動に関わり、多様な人々が活用・交流するための仕組み作りを行う」

引用 / 日本財団「子ども第三の居場所」事業募集要項より

「おいでなん処」が
できた経緯は？」

「おいでなん処」ができた経緯を教えてください。

細川 岩村田本町商店街振興組合を中心に、これからのまちづくりを考え、「子育て支援を柱にしよ」と、知恵を寄せ合ったうえで立ち上げた事業です。

——商店街の課題にも起因しているのですか。

細川 佐久市は、1998年長野冬季五輪を機に大きく変化しました。新幹線が開通し駅周辺の開発が進みました。一方、在来線の各駅の商店街が疲弊し、空き店舗が増えました。岩村田商店街は若手の理事たちが五輪前から賑わい創出に取り組み、なんとか力を尽くしてきました。

——空き店舗活用なのですか。

細川 この場所は、2001年、商店街の空き店舗対策の第一号で



▲学習スペースでまず宿題をしてから遊びへ



▲入り口にたくさん子どもたちの靴が並びます



▲おもちゃの収納もしっかり



▲学習スペースにランドセルが並ぶ

した。コミュニティスペース「おいでなん処」として、お祭りの本部やイベントの拠点、会議室などに活用していました。2006年から、子育て支援を街づくりの柱にしよつという方向に動きました。

——15年ほど前から子育て支援に注目したのですか。

細川 子育て世代に優しい街にしよつと、年間12、3回ほどイベントを企画。早起き朝ごはん、教育講演会、野辺山へのレタス取りなどなど。当時は稲荷神社のお守りを会員証にして、商店街では割引をするなど、商業を主体とした企画を展開しました。

——何がきっかけで居場所づくりに動いたのですか。

細川 2006年から市民にアンケートをとり事業を展開します。2008年に向かいの空き店舗を利用し、寺子屋塾を作りました。2011年には隣に商店街直営で「子育てお助け村」を開設。商店街での買い物時などの託児や、



▲ピアノを自由に弾いて遊ぶ子ども



▲商店街の道路向かいにある寺子屋塾



▲個人で学ぶスタイルが評判です



▲子育てお助け村は、寺子屋塾の隣です

「ダバリングカフェ」などを企画し、保健師が無料で相談に乗っています。

——寺子屋塾について教えてください。

細川 寺子屋塾は、個別で学習指導を行う学習塾です。個人の状況や習熟度に合わせた学習メニューを組むことができます。学び直しや、予習もできるプログラムを生かし、2011年から「基礎学力講座」という名で、多くの子どもたちに学習の機会を提供しています。また、2013年より通信制高校サポート校を併設しています。

——複合的な教育の場が見えてきたのですか。

細川 こうした活動を通じて、山崎さんに出会いました。協力商店街のメンバーとがつながり、「支援が必要な親子がたくさんいる」ということを再認識したのです。商店街が問題解決の場として、どうしたらいいのかをみんなで考えました。私自身も、佐久の他の子

ども支援団体の方とつながる機会も増え課題も見えてきました。子どもたちの居場所を作ろうと、岩村田地区を変えていこう、という機運が高まってきました。

——人材や資金の確保はどうしたのですか。

細川 県のみらい基金のサポートで、日本財団の「子ども第二の居場所」事業に助成金申請をし、まちづくりの柱となる街の困りごとを解消する場「子どもの第三の居場所」として、この子どもの居場所をスタートさせたのです。「地域で困っているご家庭の子どもたちがいる、なんとかサポートしたい」との想いを大切にしています。

——おいでなん処、寺子屋塾、子育てお助け村と、3箇所の連携も欠かせないですね。

細川 はい。商店街に子どもたちの声が届くこと、教育・福祉関係者も出入りしています。子どもも親も安心して利用し、相談できるのです。

スタッフのリーダーは？

現場を仕切る山崎さんは先生だったのですか。

山崎 元々は中学の保健体育の教員でした。30年勤め早期退職しました。在職中に支援の必要な子の保護者とプレジョブ事業を立ち上げました。今回その仲間にも声を掛け加わっていただき、スタッフとして一緒に運営をしています。

なぜこの活動に参加したのですか。
山崎 以前支援級担任をやっていた時、学校という枠の中で、個別の子どもや家庭への対応に限界を感じたのです。学校教育は大事だけれど、それにはめられない子が出てきている。私自身、学校と子ども間で苦しくなりました。できればマンツーマンで見たい。できなかったため退職し、子どもたちに支援できる体制ができないかと考えていました。



◆スタッフリーダー 山崎 敬子さん
 元々教員で支援教室担当や障害者支援、プレジョブ運営の経験もあります

— それでこの運営に加わったのですか。

山崎 支援の必要な子を自身の家庭で預かることもしています。その傍ら、この運営をできる範囲で担っているのです。

— おいでなん処の特徴を教えてください。

山崎 学校や学年を問わず集えるのがいいところです。高校生もボランティアとして関わるため人間関係に変化が出るのがいいのです。またピアノも設置しているため、興味を持って弾こうとする子も出てきました。今はみんながいい関係で、無理なく運営できていると思います。

— どんなお子さんが利用されていますか

山崎 以前利用していたある子は、家庭状況が悪く不登校となっていました。母親も人との関わりがもてず、子どもを取り巻く環境を悪くしている様子でした。同じ服を着ていることも多く、コンビニの食品で食事をすませているようでした。でもここに通うようになって、表情が変わってきました。ここは、安全で安心して子どもがいられる場所なのです。

— 保護者に対してはどうですか。

山崎 私も共稼ぎでしたから、子育てに悩んできました。だから迎えにきてくれる保護者とのコミュニ



▲大家族の食卓のよう！作ったご飯を、残さず食べてくれそうです

ニケーションは大事にしています。
商店街との関係はどうですか。
山崎 協力してくれる店も出てきています。昨秋には八口ウィーンも企画して、商店街を子どもたちが一回りさせていただきました。
毎日オープンしないのですか。
山崎 子どもやご家庭にとって、ここに全部依存とならないことも大事ではないでしょうか。支援が当たり前になりすぎると、ボランティア自身も辛くなり、継続自体が危うくなってしまう可能性があります。それで現在は週3日の運営にこだわっています。



▲「ご飯まだ？」と子どもたちが元気よく厨房のスタッフに聞いてくるそうです



▲調理室近くには、フードバンクや地域から提供いただく食品が！



▲その日の献立を子どもが描いてくれました



▲本格的なメニュー、子どもたちからのリクエストにこたえることもあるとのこと



▲左が佐久市民児協副会長、浅間地区会長の池田広報委員

課題と今後の展開は？

—今後の展開についてどうお考えですか。

山崎 支援の必要な子の親などが気軽に相談に来られる場になってきました。次は不登校傾向の子たちの居場所としてお昼も提供できればいいかと考えています。また高齢者にも来ていただいで、まちづくりの柱にしたいですね。こういう場所があつて、ボランティアも含め利用した子どもたちがこの街を好きになって、ここで生きていきたいと思ってくれる若者が増えてほしいですね。

—協働の力は大きいですね。

細川 長野県みらい基金や県の次世代サポート課の伴走支援が心強いと感じています。佐久市も入って支援チーム会議をやっています。もちろん民生児童委員の皆さんも関わっているんですよ。

—運営する上での課題はありますか。

細川 大きな課題は資金調達ですね。運営を継続するにはどうすればいいのか。それには、行政の支援も必要です。寄付の仕組みづくりも考え、ホームページからも受け付けています。

—山崎さんが感じる課題はどうですか。

山崎 学校や市はもちろん、地域福祉の関係者や、ボランティアなど皆さんと連携しなければ子どもたちを取り巻く課題は解決できないと実感しています。そのためには情報交換を大事にしていきたいです。

—ごども家庭庁ができましたね。

山崎 「ごどもまんなか社会」として、法制度が整備されてきました。実際、教育現場では支援級の子どもたちも増えていきます。しかし教育現場では人手が足りず、先生たちも苦しんでいます。学校の外から応援ができればいいなと思っています。子どもを中心に考え



プチコラム

浅間地区民生児童委員が「おいでなん処」を視察研修しました！

広報委員…佐久市浅間地区民生児童委員協議会々長 池田 鐘三

そもそもおいでなん処を知ったのは2023年2月6日に開催された第2回佐久地域現地支援チーム会議がオンラインで開催され、ごどもの居場所についての各種の考えが今はいかに必要で重要な事柄であると認識しました。

この考えのもとに私の所属する（浅間地区民生児童委員）の代表による理事の方々9名の視察研修を5月29日にさせて頂きました。参加した民生児童委員全員の意見を頂く中で、居場所づくりで大事なものは、生活難等それぞれの環境、課題に合った場所づくりの有意義性とその存在の有難さであるとの意見が多く出されました。

て、さまざまな活動をする人たちが線としてつながって網状になっていけば、一人でも多くの辛い環境にある子どもたちを救ってあげられると考えて活動していきたいです。

—パートナーシップが大事ですね。

細川 子どもの居場所づくりに対して自治体が力を入れ、できない部分は民間が担う。この連携をさらに発展させて、真のパートナーシップが実現できればいいなと考えています。そのためにも、民生児童委員の皆さんの力が必要になってくると思います。



▲浅間地区民児協の研修会の様子

更には本日の取材中に学校帰りの児童生徒さん達を迎え入れるボランティアの高校生達のおかげで、りなさいと言葉を掛けながら触れ合う姿を見て、心が通った場面に見事に心が釘付けになりました。この交流の姿は誰もが心に焼き付いて素晴らしい宝物になることでしょう。

訪問



記者が単位民児協におじゃまして、第三者の目で取材執筆。動画も同時に作成し県民児連のホームページでご紹介します。取材・撮影にご協力をお願いします！

！ 次は、アナタの民児協にお伺いします

民児協
だより



大町市美麻地区民生児童委員協議会



▲2人欠席のため6人で。前列真ん中が北沢孝一会長

地域社会の一員として、お年寄りも子どもたちも、無理なく見守る持続可能な活動を

美しい麻の産地だったことから、この地名がついたといわれる美麻地区。麻栽培はなくなりましたが、標高900m前後の急峻な地形が織りなす四季折々の自然、北アルプスの眺望など、たくさんの「美」はそのままです。また「南北に長いので桜の花見がひと月以上楽しめるのも魅力」と、北沢孝一会長。

旧美麻村役場職員から、平成18年（2006年）の大町市との合併後は市職員に。退職後は民生児童委員や保護司をはじめ「多過ぎて数え切れないほど」

の役職を引き受けています。「美麻に住み続ける者としてできる範囲で無理のないボランティアをして地域を存続させなければ」との強い思いがあるからです。

そんな北沢会長の方針は「民生児童委員という立場を前面に活動するのではなく、地域の一人として、つなぎ役を果たす」。

中山間地域で住居が散在していることから車が必須の見守り事業も、民生児童委員だけの負担ではなく、自治会の協力を頂きながら「無理せず詮索し過ぎず、各人ができることをする」に徹しています。4期5期と委員が

長期続投する傾向あるのも、この方針のおかげもあるようです。人口が900人を割り、減少に歯止めがかからない一方で、美麻小中学校の児童生徒数が合併前並みに維持されているのは特筆すべき状況です。合併に際して美麻の学校を存続するため地域と教育関係者が連携してさまざまな手段を講じ「自律した学習者が育つ義務教育学校」として、

地域の子どもたちと山村留学生に加え、学区外からの生徒を受



▲子どもたちの活動を見守ることも多い

け入れる「特認校」になったおかげです。

地域全体が学校運営に協力する体制の中、民生児童委員も率先して子どもたちと関わります。7月の定例会当日も「民生児童委員との懇談会」のため学校へ。情報交換と授業参観をし「長期休みを前に子どもたちを見守ろう」との思いを共有しました。校外活動授業では安全のため大人が付き添うこともあるそうですが「生徒の人数より大人の方が多いことも」ともに学ぶという熱心さで、学校を盛り上げています。

「負担を抱え込まず、お互いに協力して、誰もが生き生きと暮らせる地域づくりを目指したい」と、地域の事情を知り尽くした北沢会長は抱負を新たにしています。

東御市北御牧地区民生児童委員協議会



▲前列中央、右から俵和一会長と小林敬子副会長（2名欠席）

定例会後は内輪のサロン。結束力と風通しの良さで魅力ある地域づくりに貢献

「北御牧地区は蝶々の形」と、会長の俵和一さん。羽にあたる御牧原と八重原、2つの台地からの眺望は八ヶ岳、浅間山を始めとする信州の山々から富士山まで望むことができます。交通の便の良い適度な田舎は、アーティストや著名人にも人気の移住先です。風通しの良さも魅力の一つで、民生児童委員も半数は移住者となっています。地元

出身の俵会長は「見慣れていると気付かない地域の魅力を、移住者の観点で教えてもらえらる」「委員の皆さんが物知りなので、聞けば何でも教えてくれる」と語ります。仕事の関係で中東やアフリカに長かったというだけあって「細かいことにはこだわらない」性格で、委員それぞれ得意分野や個性を生かして活動しやすいようにサポートしています。

コロナでほとんど活動できなかった1期目を経て2期目で会長に。すぐに、温めていたアイデアを実施しました。定例会終了後は、会場の北御牧公民館2階から、1階の市民交流サロンに移動して自由に雑談する内輪のサロンのスタートです。会議では言いにくい私的な話が、実は地域課題解決のアイデアになることも多いといいます。

17人のうち13人が新人の今期、会長同様2期目の副会長・小林敬子さんは、市民交流サロンの企画や運営を手がけています。多様な活動で培った幅広い人脈と経験を、民生児童委員活動に



▲定例会後のサロンで忌憚ない話を

生かしています。

農業地帯の北御牧地区では、定年なしで働く人が委員にも住民にも多いのが特徴で、俵会長もブランド米の八重原米、野菜に胡桃、ワイン葡萄栽培にも乗り出し、出荷も個人で行うなど新たな挑戦と日常の作業で大忙し。「いきいきサロンに参加するより畑仕事の方がいいという高齢者も多くて…」と苦笑いです。「50代外に出て視野を広めた若い世代が戻りたくなるような地域づくりに貢献したい」と、未来を担う子どもたちに関わる活動に力を入れたいと語っています。

NEW! 「民児協だより」が動画になりました!

アナタの民児協を訪問し、スマホで動画に収めて編集、県民児連のホームページでご紹介します!

東御市北御牧地区民児協のご紹介動画 (8分39秒)



2023年8月7日撮影/定例会の様子と、会長から活動の説明、委員3人からのメッセージ、そして副会長からサロンの説明を収録しました。



大町市美麻地区民児協のご紹介動画 (9分28秒)



2023年7月12日撮影/学校訪問の後の定例会の様子と、会長から活動の説明、そして委員5人からメッセージを収録しました。



民生委員・児童委員活動の理解促進に向けた広報活動（ご案内）

民生児童委員のPR動画があることをご存知ですか？



全国民生委員児童委員連合会のホームページでは、民生委員・児童委員活動の正しい理解を図るため、PR動画を用意しています。

YouTube形式でスマホやタブレットで視聴可能です。ダウンロードもできます。定例会等でご覧いただき、イベントなどで地域の皆様への広報活動にお役立てください。

また、動画中に流れる音楽（ソング）は、民生委員の役割をわかりやすく簡潔にまとめています。長野県民児連ホームページの「広報資料」コーナーに用意しましたので、ダウンロードしてご活用ください。

▶PR動画はこちらから

全国民生委員児童委員連合会ホームページ
<https://www.2.shakyo.or.jp/zenminjiren/digitalsignage/>



▶音楽（ソング）はこちらから

長野県民生委員児童委員協議会連合会ホームページ
<https://www.nsyakyo.or.jp/minjiren/広報資料/>



積極的なご活用をお待ちしています

長野県民児連からの助成金（ご案内）

■民生児童委員協議会交換研究助成金

他の民児協（他県含むが、同一市内は該当しない）と一堂に会し、交換研究（視察研修含む）した場合、次の額を参加した双方の民児協に助成します。

助成額：定額2,000円＋参加委員数×300円

主な使途：交換研究実施の際に要する会場費、弁当代、茶菓子代等

■県外民生児童委員協議会研修対応事業助成金

県外民児協を受け入れて、交換研修事業を実施した場合、受け入れた民児協に助成します。

助成額：定額2,000円＋参加委員数×300円

主な使途：交換研究実施の際に要する会場費、弁当代、茶菓子代等

■広域民児協活動促進事業助成金

研修会、懇談会、セミナー等を郡又は市を単位として実施、あるいは2つ以上の郡、市が共催実施する場合、開催費を助成します。

助成額：郡市単位の場合50,000円以内、2つ以上の郡市共催の場合100,000円

主な使途：謝金旅費、会場費、使用料、印刷製本費等



表紙写真紹介

「戸隠高原カエデの紅葉」

戸隠神社で有名な長野市戸隠高原。秋は紅葉と新蕎麦の季節です。一の鳥居から飯縄山、瑠璃山を巡り、戸隠神社中社までトレッキング。途中で出逢えた赤く彩づいたカエデと戸隠蕎麦で秋を満喫しました。

撮影： 県民児連事務局 酒井 祐樹



表紙写真募集!!

表紙を作品発表の場、地域の紹介の場にと考えています。日ごろ写真を趣味にいらっしゃる民生児童委員の方々の地域の風景やお祭などの風物詩を撮った写真を募集します。

デジカメ等で撮った作品の電子データをCDRIに入れて、撮影者のプロフィール、写真の内容に関する説明を添えて県事務局までお送りください。詳細は県事務局(026-225-1613)まで。

私が活動する佐久市では、コロナ禍で一定期間停止していた月一回の70歳以上の一人世帯家庭を訪問する「見守り事業」が、コロナの感染症法の位置付けが第5類に落ち着く少し前から復活し、家庭訪問では、高齢者の方々とお会いできてほっとしています。

お伺いして、言葉を交わし合う大切さを感じあえる貴重な時間です。高齢者実態調査でも各家庭状況から見えてくるそれぞれの困難事情を把握した折、「つなぐ」という言葉の意味を納得することができました。

心配事を抱えていらっしゃる家庭環境、その理由と解決策をどう構えたら、持ったらいいのか、解決しなければという責任感ほまさしく「葛藤」でありました。

「つなぐ」は、専門職（行政及び各種専門機関）の窓口及び先輩委員からの指導助言を受ける。これがまさしく「つなぐ」という大事な時間でした。

民生委員に就任した頃、相談家庭の紹介を頂いた折、市町村の専門職員に伺い、互いに直接家庭と連絡が取りあえたこと。この判断の正しかったことが今の民生委員活動に繋がっています。

（広報委員 池田鐘三）



広報委員
リレー日記

荒深 たつ子（安曇野市）・池田 鐘三（佐久市）・林 みな（岡谷市）・唐木田 恵実子（千曲市）